



まさ たか

# やなぎだ昌孝

## 市政報告

日本維新の会奈良市議団 所属

2022年 秋号 vol.002

〒630-8043 奈良市六条1丁目12-2 TEL: 0742-46-2888

<https://m-yanagida.com>



奈良市議会の柳田昌孝は、奈良市政最大の課題の一つ、左京にあるクリーンセンター（ごみ焼却施設）を七条地区に移転建設しようとする計画や、今年度に建物の解体工事を終えようとしている平松地区の奈良県総合医療センター跡地の今後の利活用が白紙になっている問題を議会で取り上げ、市民への丁寧な説明を求めました。また西ノ京地区にある「大池」の景観保全と今後の活用について、市の積極的姿勢への転換を提案しました。

## 地元へ全体像の説明を要望

### クリーンセンター 七条地区へ新築移転問題

クリーンセンターの建設は、市が現在の左京地区から七条地区への新築移転を検討しています。また、奈良市の近隣自治体（斑鳩町）と共同で広域化したい方針で、今年度の当初予算案には、新築移転した場合の地域への還元事業などを検討するための予算、約9500万円が盛り込まれました。

七条地区への新築移転は、同意をめぐって地元の方々の賛否が分かれています。市は全国の先進地事例のデータ根拠を基に最新鋭の設備で建設し「公害が出ない」との前提で七

条地区への計画を進め、近隣住民の皆様にご同意いただくことを目指しています。

今年度の予算案では市が計画している新築移転の建設計画の概要や、周辺道路の整備計画、実現した場合の地元への還元事業、まちづくりなどについて検討した上で、これらに関係する周辺の地元へ説明するための予算が計上されました。

地元選出の市議として私は、クリーンセンターの新築移転事業そのものを、多角的な見地で賛否を判断する材料として、この当初予算案に賛

成をいたしました。地元の皆様が多くのご意見や根拠、市の説明を基に事業の賛否を議論し検討していくことができるように今後も議会活動を通じて精査していきます。



左京地区にある現在のクリーンセンター

## 過半数以上の地元住民の理解を市「最大限の努力をしていく」

このクリーンセンターの予算案を審議する委員会で私は、地域住民の皆様のご理解と協力を得るための施策や、地元意見を市がどのように吸い上げて整備計画に取り組んでいくのか、市の考えをたどりました。

市は「整備を進めていくためには、地元住民の理解を得ることが基盤。そのためには、施設の必要性、安全性や環境への配慮についての説明は

もちろん、新クリーンセンターを核とした新しいまちづくりや周辺整備、また地域課題の解決についても十分に説明することが必要」と、回答しました。

また「住民の皆様への意見交換会の機会を創出するとともに、最新施設の視察で実際に体感していただき、従来のごみ処理施設が持つイメージを一新していただくことも必要」とし、地元の理解を得るために最大限の努力をしていくと表明しました。

市は新しいクリーンセンターを核とした周辺のまちづくり整備について触れ、地元理解へ向けた最大限の努力を約束しました。私は地元への対応や意見、要望をくみ上げるための委員会や協議会などの設置検討を求め、ここに地元の住民の皆様のご参加を求めました。

またクリーンセンターはまだまだ「嫌悪施設」としてのイメージが先行しているのが現状と指摘。不安感から事業を反対されている住民の方々も多い中、市は強引に事業を進めるのではなく、過半数以上の地元住民の理解を得た上で進めていくことを強く要望しました。

### 七条地区へのクリーンセンター移転建設の課題

- 近隣市町との広域化が崩れた今、七条地区へ建設する必要性
- 建設是非の判断材料として地元に対してまちづくり案の説明が必要
- 地元の同意は絶対条件
- 周辺道路との接続とごみ搬入経路

### 広域化から斑鳩町も脱退、市単独建設に

クリーンセンターの建設と運営の広域化を目指していた市ですが、8月末に斑鳩町が脱退する方針を固めました。当初奈良市は▼生駒市▼大和郡山市▼斑鳩町▼平群町の5自治体での広域化を目指してきましたが、4自治体は全て離脱。市単独で建設

する可能性が高まり、この場合は建設予定地が七条地区である必要性も薄れました。

今後も、七条地区へ建設する必要性や意義、地元への対応を含め、市の考えを多角的にただし、賛否の議論を活発化させていきます。